

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
大原簿記学校		昭和51年10月25日		羽深 義輝		〒101-0065 (住所) 東京都千代田区西神田1丁目2番10号 (電話) 03-3237-8711			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人大原学園		昭和54年4月1日		中本 每彦		〒101-0065 (住所) 東京都千代田区西神田1丁目1番3号 (電話) 03-6261-7717			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
商業実務	商業実務専門課程		経理本科2年制学科 税理士・公認会計士コース		平成 7(1995)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的		一般的に商業実務で必要とされる、会計知識、マーケティング知識、パソコンスキルなどを修得するとともに、IT業界で必要となるプログラミング、パソコンのシステム構成に関連した知識・技能の修得を通じて、自立した社会人の育成を目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		■取得可能な資格： 税理士、公認会計士、日商簿記1級、日商簿記2級、全経簿記検定上級、社会保険労務士、TOEIC							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,700 単位時間	8,340 単位時間	4,590 単位時間	単位時間	0 単位時間	30 単位時間
				単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
480 人	213 人		6 人		0 %	11 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		67 人						
	■就職希望者数(D)		38 人						
	■就職者数(E)		34 人						
	■地元就職者数(F)		27 人						
	■就職率(E/D)		97 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		79 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		44 %						
	■進学者数		23 人						
	■その他								
	家事手伝い1名、就職活動継続4名、アルバイト4名、派遣社員1名								
(令和 6 年度卒業者に關する令和 6 年 5 月 1 日時点の情報)									
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) 有限責任あずさ監査法人、EY新日本有限責任監査法人、アーク有限責任監査法人、辻・本郷税理士法人、税理士法人山田 & パートナース 東京事務所							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無				
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.o-hara.ac.jp/senmon/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				1,700 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				150 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間				
	うち必修授業時数				210 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間				
	(B: 単位数による算定)								
	総単位数				単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数				単位				
	うち必修単位数				単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数				単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				14 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				9 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人				
	計				24 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				0 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である一般事業会社(経理事務職、販売職)、医療機関の医事課と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②商業実務分野における学修の中心となる会計知識、計数能力、マーケティング知識、情報パソコンスキルは勿論のこと、より高度な会計知識である、財務開示、財務分析などの教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①位置づけについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。

②意思決定の過程について

(ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。

(イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。

(ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。

(エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、就職本部長、教務部長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月6日現在

名 前	所 属	任期	種別
青柳 六郎太	一般財団法人 ICT経営パートナーズ協会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
城山 将臣	一般財団法人 全国スーパーマーケット協会	令和5年10月1日～令和7年9月30日(2年)	①
小松 亮一	太陽有限責任監査法人	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
岡本 正義	岡本正義税理士事務所	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
田口 操	税理士法人 田口パートナーズ会計	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
藤井 俊之	株式会社 オデッセイコミュニケーションズ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
羽深 義輝	学校法人 大原学園 大原簿記学校	—	—
裴 春彦	学校法人 大原学園 大原簿記学校	—	—
岩崎 聡	学校法人 大原学園 大原簿記学校	—	—
田村 綾	学校法人 大原学園 大原簿記学校	—	—
石川 達也	学校法人 大原学園 大原簿記学校	—	—
安田 祐也	学校法人 大原学園 大原簿記学校	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、12月)

(開催日時(実績))

令和6年度第1回:令和6年8月24日(土) 14時30分～16時20分

令和6年度第2回:令和6年12月18日(水) 16時00分～17時30分

令和7年度第1回:令和7年8月23日(土) 14時30分～16時20分

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
 実務的な観点から、どの業界においてもICTの活用は切っても切れない状況になっており、グループウェアの活用やchatGPTの普及により仕事の進め方が大きく変わってきた。そのような時代の中で、少しでもICTに触れてチャレンジする機会があったほうが良い。
 その一方で、コミュニケーション力を育むことも大切である。コロナ禍で、団体行動やイベントなどがなかった世代の学生ということもあり、コミュニティを育めなかった。行動制限も緩和されており、各種イベントやグループワークを通じて人と接する場面を増やすことで、学生の主体性にもつなげていく。
 会計系の業務においては、インボイス制度の導入により、消費税の知識を身につけるために社会人講座への申込みや各種講演会の参加が増えている。実務では申告書の作成よりも、入口となるインボイス制度に対する理解が必要になってくるため、簿記会計の授業で教えていくことも大切である。今回、検討課題に挙げた事項を踏まえて、次年度の教育に繋げていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
- ①商業実務分野における実習・演習は、教育社会福祉分野、工業分野等の分野と異なり、企業等との連携の下、学内で行なわれる学習科目が多いことを考慮して、実習・演習の組立を行なう。
 - ②企業等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
 - ③企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。

- (2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 マーケティング概論研究、経理実務の授業運営に関して企業等と協定書を締結、打合せを行い、下記の4点について講義内容の質向上のために連携している。
- ① 実習授業内容構築へのサポート
 - ② 当該実習授業における評価ポイントの確認
 - ③ 授業方法に関する教員への指導
 - ④ 学生の学修習熟状況の評価

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
給与計算実務	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	所得税・住民税の基礎知識を体系的に理解し、特に年末調整事務を行うために必要な知識を実習形式で習得する。レジューメ作成から連携しており、確認テストの成績で評価を受ける。	経理の特命レスキュー隊
経理実務	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	経理実務で必要となる業務内容を体系的に学び、特に納税等で用いる帳票書類についての知識を実習形式で習得する。教材作成から連携しており、確認テストの成績で評価を受ける。	山口一雄税理士事務所
マーケティング概論	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	マーケティングの必要性和目的を学習し、実習形式で学習する。学習内容を企業に評価してもらう。	イオンリテール株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。「大原学園 教職員研修規程」の目的に定めたとおり、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示または本人の意志により、公平に研修等を受講する機会を与えるものとする。校内、校外において学園が企画する研修は下記のとおり。

①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修

②大学教授等専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施

③学内に設置される附帯教育講座を利用した自己啓発

④各自治体等が実施する指導者向けセミナーへの参加

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	経理に関する研修	連携企業等:	山口一雄税理士事務所
期間:	令和6年12月6日(金)14:00～17:00	対象:	経理コース担当者
内容	税法改正、制度会計の改正内容を実務での影響について、また、業務を携わる上で社員が理解・実践ができればならない実務処理に関する説明を頂いた。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	令和6年度重要・経営課題研修 ICT活用力向上	連携企業等:	公益財団法人東京都私学財団
期間:	令和6年8月14日(水)14:00～16:30	対象:	当校の教職員から代表1名
内容	これからの授業づくり、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実		

研修名:	令和6年度人権教育研修	連携企業等:	公益財団法人東京都私学財団
期間:	令和6年9月4日(水)14:00～16:00	対象:	学科に所属する教員
内容	人権に配慮した適切な対応を学び、人権問題について正しい理解と認識を深める		

研修名:	アカデミックハラスメント講演会	連携企業等:	弁護士法人藤木新生法律事務所
期間:	令和6年3月26日(火)16:00～17:30	対象:	教職員全員
内容	ハラスメントに対して正しい知識を持ち、意識を高めることでハラスメントの防止に努める		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	経理に関する研修	連携企業等:	山口一雄税理士事務所
期間:	令和7年12月5日(金)14:00～17:00予定	対象:	経理コース担当者
内容	税法改正、制度会計の改正についての知識向上。また、技術革新が進むなか、経理事務職として求められる人間像や求められるスキルを説明していただき、実務上の知見を広める。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	令和7年度コミュニケーション研修「学校におけるクレーム対応」	連携企業等:	公益財団法人東京都私学財団
期間:	令和7年9月12日(金)14:00～17:00	対象:	当校の教職員から代表1名
内容	クレーム対応の一次対応・二次対応における基本的な考え方や対応方法		

研修名:	カウンセリング研修会	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和7年8月4日(月)13:30～16:30	対象:	当校の教職員から代表1名
内容	発達障害・グレーゾーンの学生が増加する中で教員が活用できるカウンセリング技術		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2)学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3)教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
(4)学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5)学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。

(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会において、教育成果および、卒業生の就職先に対する貢献度について評価していただいた。社会の変化に応じた柔軟な教育の提供に対してご意見を頂戴し、教材のデジタル化やオンラインを活用した授業など、ICTを活用し、変化する時代に合わせた教育内容を研究して提供していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
小松 亮一	太陽有限責任監査法人	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
角田 光正	西神田町会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	地域住民
須藤 勉	一般財団法人 日本私学教育研究所	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	高等学校関係
岡本 正義	岡本正義税理士事務所 (卒業生)	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: URL: <https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和7年10月6日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。

②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。

③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先 ④学校の沿革
(2)各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格 ②検定、資格取得・検定試験合格実績 ③卒業生の進路
(3)教職員	各学科の担当教員紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6)学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8)学校の財務	学園の財務状況公開
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	—
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: URL:https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/

公表時期: 令和7年10月6日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 経理本科2年制学科税理士・公認会計士コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			簿記入門Ⅰ	株式会社における複式簿記の基本原理を学ぶ	1 前	30	1	○			○		○		
2	○			一般教養Ⅰ	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ	1 通	30	1	△	○		○		○		
3	○			ビジネス教養Ⅰ	企業内で多岐にわたり使用される電卓のスピード、正確性を高める実技演習を行う。	1 通	30	1		○		○		○		
4	○			キャリアデザインⅠ	面接試験において求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ	1 通	30	1		○		○		○		
5		○		3級商業簿記基礎	株式会社における複式簿記の基本原理、簿記の基本原理を学ぶ	1 前	90	3	○			○		○		
6		○		3級簿記総合	基礎レベルではやや難しい会計処理を問題演習を通じて学ぶ	1 前	120	4		○		○		○		
7		○		2級商業簿記基礎Ⅰ	基本的な財務報告書類の作成方法・株式会社会計の基礎を学ぶ	1 前	90	3	○			○		○		
8		○		2級工業簿記基礎Ⅰ	工企業を前提とする会計処理の基礎を学ぶ	1 前	60	2	○			○		○		
9		○		2級簿記総合Ⅰ	商企業および工企業の会計処理を問題演習を通じて学び、本支店会計、連結会計、原価計算の基礎も学ぶ	1 前	120	4		○		○		○		
10		○		1級会计学速習基礎	会計基準および適用指針など実務に直結する会計の基礎について短期間で学習し、問題演習は各自で行うことを原則とする	1 前	90	3	○			○		○		
11		○		1級原価計算速習基礎	伝統的な工業簿記および原価計算の基礎および経営戦略の基本的な内容について短期間で学習し、問題演習は各自で行うことを原則とする	1 前	60	2	○	△		○		○		
12		○		1級簿記速習総合	大企業を前提とした会計制度を学ぶ	1 前	120	4		○		○		○		

13		○	1級会計学入門Ⅰ	資産負債中心観を主体とした理論体系を学び現行基準との整合性、課題を学ぶ	1前	90	3	○			○		○		
14		○	1級原価計算入門Ⅰ	伝統的な工業簿記および原価計算の基本的な内容を学ぶ	1前	90	3	○			○		○		
15		○	会計学入門Ⅰ	簿記一巡・商品の流れの初歩的な知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1前	60	2	○			○		○		
16		○	会計学入門Ⅱ	会計学、会計基準の初歩的な概要を学ぶ	1前	60	2	○			○		○		
17		○	2級商業簿記基礎Ⅱ	試算表、精算表、財務報告書など他の会計書類の関連性について体系的に学び、財務報告書類の作成方法・株式会社会計を学ぶ	1前	90	3	○			○		○		
18		○	2級工業簿記基礎Ⅱ	工業簿記および原価計算の関係および会計処理を学ぶ	1前	90	3	○			○		○		
19		○	簿記論速習基礎Ⅰ	簿記の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1前	90	3	○			○		○		
20		○	簿記論速習応用Ⅰ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1前	120	4	○			○		○		
21		○	簿記論速習総合Ⅰ	総合問題論点の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1前	90	3	○			○		○		
22		○	簿記論速習総合Ⅱ	問題演習により効率的な得点ができるように、問題を解答する	1前	90	3	○			○		○		
23		○	1級簿記速習演習	個別会計、結合会計などを通じて近年の企業再編等についても学ぶ	1前	60	3		○		○		○		
24		○	全経簿記上級総合Ⅰ	大企業を前提とした会計制度、複雑な会計処理をより詳細に学ぶ	1前	120	4	○	△		○		○		
25		○	国税徴収法速習基礎Ⅰ	租税と私債権の競合における配当計算を中心とした税法理論を学ぶ	1前	60	2	○			○		○		
26		○	国税徴収法速習総合Ⅰ	交付要求、参加差押えの相違を中心とした国税徴収法の体系を学ぶ	1前	90	3	○	△		○		○		
27		○	1級会計学基礎Ⅰ	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計の基礎について学ぶ	1前	30	1	○	△		○		○		

28		○	1級原価計算基礎Ⅰ	伝統的な工業簿記および原価計算の基礎および経営戦略の基本的な内容を学ぶ	1前	30	1	○	△		○		○		
29		○	2級商業簿記応用Ⅰ	商企業の会計処理に関する全体の関連性について体系的に学ぶ	1前	30	1	○			○		○		
30		○	2級工業簿記応用Ⅰ	工業簿記および原価計算の関係および会計処理を学ぶ	1前	30	1	○			○		○		
31		○	簿記論入門Ⅰ	簿記一巡・商品の流れの入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1前	30	1	○			○		○		
32		○	財務諸表入門Ⅰ	会計学の概要入門を学ぶ	1前	30	1	○	△		○		○		
33		○	消費税法入門Ⅰ	売上取引を中心とした消費税の可否区分の考え方を学習する	1前	30	1	○			○		○		
34		○	相続税法入門Ⅰ	相続税および贈与税の概要入門を学ぶ	1前	30	1	○	△		○		○		
35		○	法人税法入門Ⅰ	法人税法の計算体系の理解を目的とする	1前	30	1	○			○		○		
36		○	消費税法速習入門Ⅰ	売上・仕入取引についての消費税の可否区分の考え方を学習する	1前	30	1	○			○		○		
37		○	1級会计学総合Ⅰ	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計について、より詳細に学ぶ	1後	90	3		○		○		○		
38		○	1級原価計算総合Ⅰ	原価計算基準の理論体系、多様化する製造過程に対する会計処理、経営戦略について、より詳細に学ぶ	1後	90	3		○		○		○		
39		○	2級簿記総合Ⅱ	商企業および工企業の会計処理を問題演習を通じて学習し、総合問題の基礎も学ぶ	1後	90	3		○		○		○		
40		○	2級簿記総合Ⅱ	株式会社の会計処理を問題演習、総合問題の演習を通じて学ぶ	1後	90	3		○		○		○		
41		○	簿記論入門Ⅱ	固定資産・有価証券の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1後	90	3	○			○		○		
42		○	財務諸表論入門Ⅱ	会計基準の入門概要を学ぶ	1後	90	3	○			○		○		

43		○	消費税法入門Ⅱ	控除税額を中心とした考え方を学習する	1 後	90	3	○			○		○		
44		○	相続税法入門Ⅱ	相続税、贈与税の入門的な問題の理解	1 後	90	3	○	△		○		○		
45		○	法人税法入門Ⅱ	貸倒引当金の設定方法を中心とした法人税法の体系を学ぶ	1 後	90	3	○			○		○		
46		○	消費税法速習基礎Ⅰ	仕入税額控除及び国境を越えた役務の提供を中心とした考え方を学習する	1 後	30	1	○			○		○		
47		○	簿記論基礎Ⅰ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1 後	120	4	○			○		○		
48		○	財務諸表論基礎Ⅰ	金融商品取引法の概要入門を学ぶ	1 後	120	4	○			○		○		
49		○	消費税法基礎Ⅰ	納税義務判定の特例や、仕入税額控除の特例などの考え方を学習する	1 後	120	4	○			○		○		
50		○	相続税法基礎Ⅰ	相続税、贈与税の入門的な知識を網羅し文章問題を解答する	1 後	120	4	○	△		○		○		
51		○	法人税法基礎Ⅰ	役員判定、役員給与を中心とした法人税法の体系を学ぶ	1 後	120	4	○			○		○		
52		○	簿記論基礎Ⅱ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1 後	120	4	○			○		○		
53		○	財務諸表論基礎Ⅱ	会計学の入門・基礎を学ぶ	1 後	120	4	○	△		○		○		
54		○	全経簿記上級総合Ⅱ	大企業を前提とした会計制度を学習し、複雑な会計処理をより詳細に学ぶ	1 後	120	4	○	△		○		○		
55		○	1級会計学入門Ⅱ	これまでの学習を総括し、再度、基本的な内容から確認し、基礎的な理論体系、現行基準との整合性を確認する	1 後	60	2	○	△		○		○		
56		○	1級原価計算入門Ⅱ	これまでの学習を総括し、再度、基本的な内容から確認し、工業簿記および原価計算の関係性を学ぶ	1 後	60	2	○	△		○		○		
57		○	消費税法速習応用Ⅰ	納税義務の有無の判定や、仕入税額控除の特例の考え方を学習する	1 後	60	2	○			○		○		

58		○	国税徴収法基礎Ⅰ	国税徴収法の解釈を学び、入門問題を読解できるようにする。	1 後	60	2	○			○		○		
59		○	ビジネス実務入門Ⅰ	働くうえで備えておくべき基本的な心構えや一般知識を理解する	1 後	30	1	○			○		○		
60		○	ビジネス実務応用Ⅰ	職場でのマナー・技能を理解する	1 後	60	2		○		○		○		
61		○	財務会計論簿記入Ⅰ	商品売買及び棚卸資産に関する初歩的な会計処理を学ぶ	1 前	60	2	○	△		○		○		
62		○	管理会計論入門Ⅰ	管理会計の概要を知り、基礎を学ぶ	1 前	30	1	○			○		○		
63		○	財務会計論簿記入Ⅱ	初歩的な会計処理を学ぶ	1 前	60	2	○	△		○		○		
64		○	財務会計論財表入門Ⅰ	財務会計の基礎概念を体系的に学ぶ	1 前	30	1	○			○		○		
65		○	管理会計論入門Ⅱ	管理会計の概要を知り、原価計算制度の基礎知識を学ぶ	1 前	60	2	○	△		○		○		
66		○	企業法入門Ⅰ	会社法の全体像を俯瞰し、会社の設立を中心とした基礎的な概念を学ぶ	1 前	60	2	○			○		○		
67		○	監査論入門Ⅰ	監査手続きに関して、財務諸表監査に対する基礎的な枠組みを学ぶ	1 前	30	1	○			○		○		
68		○	財務会計論簿記入Ⅲ	基礎知識の定着度確認を目的とする演習	1 後	30	1		○		○		○		
69		○	財務会計論簿記入Ⅳ演習Ⅰ	数学的な基礎知識を基に、計算問題の解答を行う	1 後	30	1		○		○		○		
70		○	管理会計論入門Ⅳ演習Ⅰ	問題演習を行うことで、原価計算制度の基礎知識を定着させることを図る	1 後	30	1	△	○		○		○		
71		○	短答式対策入門総合Ⅰ	模擬試験形式による効果測定	1 後	30	1	△	○		○		○		
72		○	企業法入門Ⅱ	会社法の全体像を俯瞰し、株式を中心とした基礎的な概念を学ぶ	1 後	30	1	○	△		○		○		

73		○	監査論入門Ⅱ	監査手続きに関して、監査実施論に対する基礎的な枠組みを学ぶ	1 後	30	1	○	△		○		○		
74		○	租税法入門Ⅰ	法人税法の概要を捉え、基本的な計算を学ぶ	1 後	30	1	○			○		○		
75		○	経営学入門Ⅰ	ファイナンス分野の基礎的な計算知識を学ぶ	1 後	30	1	○			○		○		
76		○	租税法入門Ⅱ	テキストを中心とした講義により概要を知る	1 後	30	1	○			○		○		
77		○	管理会計論基礎演習Ⅰ	計算問題と記述式問題を織り交ぜながら、管理会計の基礎知識を定着させることを図る	1 後	30	1	△	○		○		○		
78		○	財務会計論基礎演習Ⅰ	数学的な基礎知識及び論理的な思考を基に、記述式問題の解答を行う	1 後	60	2	△	○		○		○		
79		○	企業法基礎演習Ⅰ	簡易的な記述式問題により会社法に関する正確な知識のインプットを図る演習	1 後	30	1	△	○		○		○		
80		○	監査論基礎演習Ⅰ	監査制度に関する個別的な論点を基本的な記述式問題を通じて定着させることを図る	1 後	30	1	△	○		○		○		
81		○	経営学基礎演習Ⅰ	簡易的な計算問題によりファイナンス分野の知識のインプットを図る演習	1 後	30	1	△	○		○		○		
82		○	租税法基礎演習Ⅰ	計算問題を中心に法人税法に関する重要論点のインプットを図る演習	1 後	30	1	△	○		○		○		
83		○	財務会計論簿記入門Ⅳ	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	1 後	90	3	△	○		○		○		
84		○	財務会計論財表入門Ⅱ	概念フレームワーク及び資産評価の基礎概念を学ぶ	1 後	30	1	○	△		○		○		
85		○	管理会計論入門Ⅲ	択一式の問題演習を通して、計算力の向上や原価計算基準を学ぶ	1 後	60	2	○	△		○		○		
86		○	企業法入門Ⅲ	会社法の全体像を俯瞰し、株式会社の機関設計や資金調達を中心とした基礎的な概念を学ぶ	1 後	60	2	○	△		○		○		
87		○	監査論入門Ⅲ	監査手続きに関して、監査報告論に対する基礎的な枠組みを学ぶ	1 後	30	1	○	△		○		○		

88		○	会計士キャリアデザインⅠ	職種や業種について基本的学習を行いつつ、会計士試験の理解を深め試験勉強と実務におけるつながりを理解する	1通	30	1	○			○		○		
89	○		一般教養Ⅱ	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など国語分野に関する知識まで身につける	2通	30	1		○		○		○		
90	○		ビジネス教養Ⅱ	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う	2通	30	1		○		○		○		
91	○		キャリアデザインⅡ	会社などの組織を理解し、最低限身につけなければならないスキルの学習	2通	30	1	○	△		○		○		
92		○	簿記論応用Ⅰ	総合問題論点の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2前	60	2	○			○		○		
93		○	財務諸表論応用Ⅰ	会社法の概要入門を学ぶ	2前	60	2	○	△		○		○		
94		○	消費税法応用Ⅰ	軽減税率や複数税率などの考え方を学習する	2前	60	2	○			○		○		
95		○	相続税法応用Ⅰ	相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学習をし、理解を深める	2前	60	2	○	△		○		○		
96		○	法人税法応用Ⅰ	連結納税制度等の特殊項目の学習を進める	2前	60	2	○			○		○		
97		○	簿記論総合Ⅰ	問題演習により効率的な得点ができるように、問題を解答する	2前	180	6	○			○		○		
98		○	財務諸表論総合Ⅰ	財務諸表作成の入門概要を学ぶ	2前	180	6	○	△		○		○		
99		○	消費税法総合Ⅰ	確定申告書の納付税額算出までの基本的な流れを学ぶ	2前	180	6		○		○		○		
100		○	相続税法総合Ⅰ	相続税および贈与税の規定、申告について総合的に学ぶ	2前	180	6	○	△		○		○		
101		○	法人税法総合Ⅰ	法人税法の計算体系の知識習得を目的とする	2前	180	6		○		○		○		
102		○	簿記論応用Ⅱ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2前	60	2	○			○		○		

103		○	財務諸表論応用Ⅱ	会社法の入門・基礎を学ぶ	2 前	60	2	○	△		○		○		
104		○	簿記論総合Ⅱ	問題演習により効率的な得点ができるように、問題を解答する	2 前	180	6	○			○		○		
105		○	財務諸表論総合Ⅱ	財務諸表作成の入門・基礎を学ぶ	2 前	180	6	○	△		○		○		
106		○	簿記論速習基礎Ⅱ	簿記の応用知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2 前	120	4	○			○		○		
107		○	簿記論速習応用Ⅱ	特殊商品売買・金融商品の応用知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2 前	120	4	○			○		○		
108		○	簿記論速習総合Ⅲ	総合問題論点の応用知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2 前	120	4	○			○		○		
109		○	簿記論速習総合Ⅳ	問題演習により効率的な得点ができるように、問題を解答する	2 前	120	4	○			○		○		
110		○	2級商業簿記基礎Ⅲ	試算表、精算表、財務報告書など他の会計書類の関連性について体系的に学び、財務報告書類の作成方法・株式会社会計を学ぶ	2 前	60	2	○			○		○		
111		○	1級会計学総合Ⅱ	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計について、より詳細に学ぶ	2 前	60	2		○		○		○		
112		○	2級工業簿記基礎Ⅲ	工企業の原価計算手法である個別原価計算および総合原価計算を学び、かつ、原価計算に関する知識習得を目的とする	2 前	60	2	○			○		○		
113		○	1級原価計算総合Ⅱ	原価計算基準の理論体系、多様化する製造過程に対する会計処理、経営戦略について、より詳細に学ぶ	2 前	60	2		○		○		○		
114		○	1級会計学入門Ⅲ	これまでの学習を総括し、再度、基本的な内容から確認し、基礎的な理論体系、現行基準との整合性を確認する	2 前	120	4	○			○		○		
115		○	1級原価計算入門Ⅲ	これまでの学習を総括し、再度、基本的な内容から確認し、工業簿記および原価計算の関係性を学ぶ	2 前	120	4	○			○		○		
116		○	消費税法速習総合Ⅰ	確定申告書の納付税額算出までの基本的な流れを学ぶ	2 前	90	3		○		○		○		
117		○	国税徴収法総合Ⅰ	納税の猶予を中心とした国税通則法の規定を学ぶ	2 前	90	3	○	△		○		○		

118		○	国税徴収法速習基礎Ⅱ	各種財産の差押え方法を中心とした税法理論を学ぶ	2前	60	2	○			○		○		
119		○	国税徴収法速習総合Ⅱ	国税徴収法24条と26条の関係性を中心とした租税理論を学ぶ	2前	90	3	○	△		○		○		
120		○	全経簿記上級総合Ⅲ	大企業を前提とした会計制度、複雑な会計処理をより詳細に学ぶ	2前	120	4	○	△		○		○		
121		○	簿記論入門Ⅲ	簿記一巡・商品の流れの入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2前	30	1	○			○		○		
122		○	財務諸表論入門Ⅲ	会計学の基礎を学ぶ	2前	30	1	○	△		○		○		
123		○	消費税法入門Ⅲ	売上取引を中心とした消費税の可否区分の処理方法を学習する	2前	30	1	○			○		○		
124		○	相続税法入門Ⅲ	相続税および贈与税の概要基礎を学ぶ	2前	30	1	○	△		○		○		
125		○	法人税法入門Ⅲ	法人税法の計算体系、仕組みの理解を目的とする	2前	30	1	○			○		○		
126		○	消費税法速習入門Ⅱ	売上・仕入取引についての消費税の可否区分の処理方法を学習する	2前	30	1	○			○		○		
127		○	簿記論基礎Ⅲ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2後	120	4	○			○		○		
128		○	財務諸表論基礎Ⅲ	会計基準の基礎を学ぶ	2後	120	4	○			○		○		
129		○	消費税法基礎Ⅱ	控除税額や納税義務の有無の判定を中心に処理方法を学習する	2後	120	4	○			○		○		
130		○	相続税法基礎Ⅱ	相続税、贈与税の基礎的な問題の理解	2後	120	4	△	○		○		○		
131		○	法人税法基礎Ⅱ	欠損金の設定方法を中心とした法人税法の体系を学ぶ	2後	120	4	○			○		○		
132		○	消費税法速習基礎Ⅱ	仕入税額控除及び国境を越えた役務の提供を中心とした処理方法を学習する	2後	30	1	○			○		○		

133		○	簿記論基礎Ⅳ	固定資産・有価証券の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2後	60	2	○			○		○		
134		○	財務諸表論基礎Ⅳ	金融商品取引法の基礎を学ぶ	2後	60	2	○			○		○		
135		○	消費税法基礎Ⅲ	課税標準や簡易課税制度を中心とした処理方法を学習する	2後	60	2	○			○		○		
136		○	相続税法基礎Ⅲ	相続税、贈与税の基礎的な知識を網羅し文章問題を解答する	2後	60	2	△	○		○		○		
137		○	法人税法基礎Ⅲ	組織再編税制を中心とした法人税法の体系を学ぶ	2後	60	2	○			○		○		
138		○	消費税法速習応用Ⅱ	納税義務の有無の判定や、仕入税額控除の特例を中心とした処理方法を学習する	2後	60	2	○			○		○		
139		○	国税徴収法基礎Ⅱ	滞納者の財産の調査方法を中心とした税法理論を学ぶ	2後	60	2	○			○		○		
140		○	短答式対策入門総合Ⅱ	模擬試験形式による効果測定	2前	30	1		○		○		○		
141		○	管理会計論応用演習Ⅰ	応用力を身に着けるために、計算問題と記述式問題を織り交ぜた問題を解く	2前	30	1	△	○		○		○		
142		○	財務会計論応用演習Ⅰ	数学的な応用知識及び論理的な思考を基に、記述式問題の解答を行う	2前	60	2	△	○		○		○		
143		○	企業法応用演習Ⅰ	出題の意図に沿った会社法分野の正確な記述解答を図る演習	2前	30	1	△	○		○		○		
144		○	監査論応用演習Ⅰ	解答の記述構成など監査制度に関する記述レベルを引き上げを図る演習	2前	30	1	△	○		○		○		
145		○	経営学応用演習Ⅰ	ファイナンス分野の知識のインプット及びアウトプット力の向上を図る演習	2前	30	1	△	○		○		○		
146		○	租税法応用演習Ⅰ	論理的な思考を用い法人税法に関する重要論点のアウトプット力の向上を図る演習	2前	30	1	△	○		○		○		
147		○	財務会計論簿記入入門Ⅴ	リース会計及びその他の資産並びに社債に関する初歩的な会計処理を学ぶ	2前	60	2	○	△		○		○		

148		○	財務会計論財 表入門Ⅲ	棚卸資産及び固定資産並びに繰延資産の会 計処理に関する基礎概念を学ぶ	2 前	30	1	○	△		○		○		
149		○	管理会計論入 門Ⅳ	問題演習を通して、計算力の向上とと もに原価計算基準の知識の定着を図る	2 前	60	2	△	○		○		○		
150		○	企業法入門Ⅳ	会社法の全体像を俯瞰し、計算書類、定款 変更、事業譲渡と組織再編行為を中心とし た基礎的な概念を学ぶ	2 前	30	1	○	△		○		○		
151		○	監査論入門Ⅳ	監査手続きに関して、継続企業及び公認会 計士法に対する基礎的な枠組みを学ぶ	2 前	30	1	○	△		○		○		
152		○	財務会計論簿 記計算特訓Ⅰ	退職給付会計及び資産除去債務に関する基 礎的な会計処理を学ぶ	2 前	30	1	○	△		○		○		
153		○	管理会計論計 算特訓Ⅰ	入門講義で学習した知識を基に、計算力の 向上を図る	2 前	30	1	△	○		○		○		
154		○	財務会計論簿 記入門演習Ⅱ	数学的な基礎知識を基に、問題の解答を行 う	2 前	30	1	△	○		○		○		
155		○	管理会計論入 門演習Ⅱ	基礎的な総合問題を解くことで、管理会計 の構造を理解する	2 前	30	1	△	○		○		○		
156		○	管理会計論直 前演習Ⅰ	問題演習を通して、論理的な思考力と 文章表現力を磨く	2 前	30	1	△	○		○		○		
157		○	財務会計論直 前演習Ⅰ	数学的・論理的な思考を基に、実務的な総 合問題の解答を行う	2 前	60	2	△	○		○		○		
158		○	企業法直前演 習Ⅰ	会社法の横断的に係わる規定から出題され る問題へのアプローチ方法を習得する演習	2 前	30	1	△	○		○		○		
159		○	監査論直前演 習Ⅰ	監査制度に関する応用的な知識を事例を用 いて記述式で問題解答を行う	2 前	30	1	△	○		○		○		
160		○	経営学直前演 習Ⅰ	ファイナンス分野の知識のアウトプット力 の向上を図る演習	2 前	30	1	△	○		○		○		
161		○	租税法直前演 習Ⅰ	出題予想に基づく法人税法に関する試験独 特の知識のインプットを図る演習	2 前	30	1	△	○		○		○		
162		○	論文式対策総 合Ⅰ	模擬試験形式による総合問題の効果測定	2 前	30	1	△	○		○		○		

163		○	財務会計論簿記基礎Ⅰ	純資産会計及び法人税に関する基礎的な知識を学ぶ	2前	60	2	○			○		○		
164		○	財務会計論財表基礎Ⅰ	負債会計及び純資産会計に関する基礎概念を学ぶ	2前	30	1	○			○		○		
165		○	管理会計論基礎Ⅰ	基本的な用語や諸概念を理解するとともに、原価計算の一連の計算手続を理解する	2前	60	2	○			○		○		
166		○	企業法基礎Ⅰ	会社法を中心とした、会社の設立や株式に関する知識を学ぶ	2前	60	2	○			○		○		
167		○	監査論基礎Ⅰ	監査制度や監査の進め方に関して、財務諸表監査及び監査実施論についての基礎知識を学ぶ	2前	30	1	○			○		○		
168		○	財務会計論簿記入門演習Ⅲ	数学的な思考を用い、計算総合問題の解答を行う	2前	30	1		○		○		○		
169		○	管理会計論入門演習Ⅲ	管理会計の構造を意識しながら、総合問題を解くことで知識の定着を図る	2前	30	1		○		○		○		
170		○	TOEIC	英語による基本的な会計用語及び会計処理を学ぶ	2後	30	1	○			○		○		
171		○	TOEICⅡ	基本的な問題の演習による基礎力の確認	2後	30	1		○		○		○		
172		○	企業法基礎Ⅱ	会社法を中心とした、株式会社の機関に関する知識を学ぶ	2後	30	1	○	△		○		○		
173		○	監査論基礎Ⅱ	監査制度や監査の進め方に関して、具体的な監査技術についての基礎知識を学ぶ	2後	30	1	○	△		○		○		
174		○	財務会計論簿記基礎Ⅱ	基礎知識の定着度確認を目的とする演習	2後	30	1		○		○		○		
175		○	財務会計論簿記上級演習Ⅰ	数学的な基礎知識を基に、計算問題の解答を行う	2後	30	1	△	○		○		○		
176		○	管理会計論上級演習Ⅰ	問題演習を行うことで、原価計算制度の知識を定着させる	2後	30	1		○		○		○		
177		○	短答式対策上級総合Ⅰ	模擬試験形式による効果測定	2後	30	1	△	○		○		○		

178		○	租税法基礎Ⅰ	計算項目を理論的側面から捉える	2 後	30	1	○			○		○		
179		○	経営学基礎Ⅰ	組織論を中心に時代に沿って経営学を学ぶ	2 後	30	1	○			○		○		
180		○	租税法基礎Ⅱ	計算項目を理論的側面から捉える	2 後	30	1	○			○		○		
181		○	管理会計論基礎演習Ⅱ	計算問題と記述式問題を織り交ぜながら、管理会計論の典型論点を中心に理解を深める	2 後	30	1		○		○		○		
182		○	財務会計論基礎演習Ⅱ	数学的な基礎知識及び論理的な思考を基に、記述式問題の解答を行う	2 後	60	2		○		○		○		
183		○	企業法基礎演習Ⅱ	簡易的な記述式問題により商法に関する正確な知識のインプットを図る演習	2 後	30	1		○		○		○		
184		○	監査論基礎演習Ⅱ	監査実施論に関する個別的な論点を基本的な記述式問題を通じて定着させることを図る	2 後	30	1		○		○		○		
185		○	経営学基礎演習Ⅱ	簡易的な記述式問題により組織論に関する知識のインプットを図る演習	2 後	30	1		○		○		○		
186		○	租税法基礎演習Ⅱ	計算問題を中心に所得税法に関する重要論点のインプットを図る演習	2 後	30	1		○		○		○		
187		○	財務会計論簿記基礎Ⅲ	連結会計に関する基礎的な会計処理を学ぶ	2 後	90	3	○	△		○		○		
188		○	財務会計論財表基礎Ⅱ	財務諸表の表示及び注記に関する基礎概念を学ぶ	2 後	30	1	○	△		○		○		
189		○	管理会計論基礎Ⅱ	原価計算システムを通じて提供される原価情報が企業経営においてどのように役立つのかを理解する	2 後	60	2	○	△		○		○		
190		○	企業法基礎Ⅲ	会社法を中心とした、資金調達に関する知識を学ぶ	2 後	60	2	○	△		○		○		
191		○	監査論基礎Ⅲ	監査制度や監査の進め方に関して、具体的な監査計画についての基礎知識を学ぶ	2 後	30	1	○	△		○		○		
192		○	会計士キャリアデザインⅡ	オフィスツアーや会計・監査の実務家の講演により、会計専門職としての職業観を身につける	2 後	30	1		○		○	△	○		

193		○	経理実務	経理実務で必要となる業務内容を体系的に学び、特に納税等で用いる帳票書類についての知識を実習形式で習得する。教材作成から連携しており、確認テストの成績で評価を受ける。	2 後	60	2	△		○	○	○	○
194		○	給与計算実務	所得税・住民税の基礎知識を体系的に理解し、特に年末調整事務を行うために必要な知識を実習形式で習得する。レジューメ作成から連携しており、確認テストの成績で評価を受ける。	2 後	30	1	△		○	○	○	○
195		○	経理実務基礎Ⅲ	経理実務で必要となる業務内容の概要を体系的に学び、帳票書類についての知識の基礎を習得する	2 後	30	1	○		○	○		
196		○	パソコン実習Ⅰ	Word、Excelを操作するための基礎的な知識を身につける実習	2 前	30	1		○	○	○		
197		○	パソコン実習Ⅱ	Word、Excelを操作し簡単な文書の作成、表やグラフを用いてレイアウトや見栄えの調節を行うためのスキルを身につける実習	2 後	30	1			○	○	○	
198		○	パソコン実習Ⅲ	Word：長文を効率良く編集するためのスキルを習得する実習 Excel：目的に沿った編集を効率的に行うためのスキルを習得する実習	2 後	30	1			○	○	○	
199		○	ビジネスマナー	ビジネス電話対応や接客、接遇に関するルールを学習する	2 通	60	2	○	△		○	○	
200		○	財務会計	財務諸表の作成に関する知識と技術を身につけ、財務会計の意義や制度についての理解を深めるための講義	2 後	90	3	○		○	○		
201		○	マーケティング概論	マーケティングの必要性と目的を学習し、実習形式で学習する。学習内容を企業に評価してもらう。	2 後	60	1	△		○	○	○	○
202		○	マーケティング基礎	事例研究を通じてマーケティングを演習する	2 後	60	2	○		○	○		
203		○	ITパスポート基礎	情報技術の基礎となる考え方・仕組み・専門用語を理解する	2 後	90	3	○	△	○	○		
204		○	ITパスポート・リテラシ演習	情報技術の考え方・仕組み・専門用語を問題演習を通じて学ぶ	2 後	30	1		○	○	○		
205		○	ITパスポート応用	情報技術の考え方・仕組み・専門用語を問題演習を通じて学ぶ	2 後	60	1	○	△	○	○		

[illegible]

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(修了・卒業の認定) 1. 授業科目の成績評価に基づいて、卒業審査により課程修了の認定を行う。校長は、本校所定の課程を修了したと認めた者には、卒業証書を授与する。 卒業要件： (1) 経理本科2年制学科 1,700時間 (2) 経理本科4年制学科 3,400時間 2. 前項に規定する卒業の認定は、最終学年の終わりに行う。 (進級) 1. 進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修および単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。		1 学年の学期区分	2 期
(試験等) 1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。 2. 本校において必要と認めた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。 (学業成績) 1. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。		1 学期の授業期間	22 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。